

衝突安全性能評価の変更に関する検討状況

ロードマップにおいて、2018年度から衝突安全性能評価を変更して実施する予定となっているところ、その検討状況は以下のとおり。

(1) 2018年度からのフルラップ衝突安全性能評価の変更

法規に基づく基準において、高齢者の安全性を考慮して助手席ダミーが平均的な体格の成人男性ダミーから小柄女性ダミーになることを踏まえた変更を自動車アセスメントにおいても行う。また、評価の閾値も基準値の変更等を踏まえて変更する。

これに併せて、オフセット衝突において後席に搭載する小柄女性ダミーの閾値を変更することも検討する。当該ダミーの脛部については、検定方法等が定まっていないことから、データ取得が出来ないため計測しない。

ダミーの変更を踏まえてシートポジションについても検討を行う。

事故実態を考慮し助手席搭載ダミーの変更を行うもので、衝突速度については変更しない。

(2) 2018年度からの側面衝突安全性能評価の変更

車両の重量、寸法等の変化を踏まえたバリア変更、技術の進展を踏まえたダミーの変更及び前突と同様に高齢者の実態を踏まえた閾値変更を行うとともに、新たに後席の乗員保護性能評価の実施を検討する（後席に搭載することが適当と考えられる小柄ダミーは、現存するものでは胸部傷害の評価が適切に行えない可能性が高いため、その効果を踏まえた判断が必要。）。

ダミーの変更を踏まえてシートポジションについても検討を行う。

調査研究の結果、衝突速度については交通事故実態を踏まえて変更しないことが適当。

(3) 確認試験の実施

今回の評価の条件で適切に試験を実施し、評価することができるかを調査研究における試験によって確認を行った（調査研究で使用した車両はホンダ N-WGN）。

側面衝突安全性能評価の変更については、条件が厳しすぎる場合に備えて、50km/hでの確認試験も合わせて実施した。

これらの試験を実施したところ、概ね想定している条件で評価試験を実施できることが確認された。

(4) 総合評価の変更

今回の評価方法の変更による被害軽減効果（基準と切り分けた効果を社会損失額ベースで考慮することを検討）を踏まえた2018年度からの総合評価のあり方を検討している。

(5) 今後の予定

5月までに調査結果を踏まえて変更後の試験方法及び評価方法の案を策定し、7月頃開催される検討会に諮れるように調整を進める。